

質問内容	回答
講座は4コース分を想定されているが、コース設立について条件はあるか。 例：平日2コース、土日2コースのような想定はあるか。	コースの曜日や時間帯については、仕様書上で固定的な条件は設けていません。 受講対象者の属性や利便性を踏まえた案を提案書に記載いただき、契約後にRYO-FU BASEと協議の上、最終決定する想定です。 なお、過去に実施した講座の事例を参考としていただくことは可能です。
講義形式はオンラインのみ、対面のみなどの想定はあるか。	講座は仕様書に基づき、原則オンラインでの受講を可能としつつ、必要に応じて佐賀県内に対面参加可能な会場を設け、オンラインと併用した形態で実施することとしています。
勉強会はコース毎に実施するのか。また、勉強会もハイブリット形式で行うのか。	勉強会については、必ずしもコース毎に実施する必要はなく、複数コース合同での実施も可能です。 また、勉強会についても、オンラインと佐賀県内会場を併用した形での実施を想定しています。
講師は佐賀県に必ず行く必要はあるか。	講師については、すべてオンラインでの対応として差し支えありません。
4コース実施するところだが、初めて学ぶ受講生のデータサイエンスの知識を基礎から積み上げていきアソシエート・データサイエンティスト（一般社団法人データサイエンティスト協会における）を目指すイメージか。	仕様書に記載のとおり、本事業はデータサイエンス未経験者を含む受講生を対象に、基礎から段階的に知識・スキルを積み上げ、最終的にアソシエート・データサイエンティスト相当のレベルを目指すことを想定しています。
講師はすべてオンラインでの対応が良いか。1回程度は佐賀県へ講師が行く必要があるか。	講師については、すべてオンラインでの対応として差し支えありません。
成果発表会のイメージを教えてください。	成果発表会は、受講生が講座を通じて習得したデータ活用の知識・手法を、自身の所属企業や関係する組織における実課題に即して活用し、その成果を発表する場を想定しています。
成果発表会は4コース合同実施でも良いか。	4コース合同実施でも実施可能です。
データサイエンティストのアソシエート・データサイエンティストを目指すところだが、事業のKPIは修了率、100名となっている。 アソシエート・データサイエンティストを達成度合いを測るような内容までは求めているわけではないということか。	本事業におけるKPIとしては、仕様書に記載のとおり、受講者数100名および修了率（75%以上）が設定されています。 一方で、カリキュラムの到達目標としては、アソシエート・データサイエンティスト相当のスキルレベルを目指す目標として定めています。 DS協会の認定試験合格等をKPIとして設定することまでは求めていません。
説明会の資料ではスケジュール案として本講座の期間が3ヵ月となっているが、コースごとに分割して受講期間が長いコースを設定することは可能か。	本講座については、仕様書上、1コースあたり108時間以上の講座実施が求められており、期間については例として約3ヵ月程度が示されていますが、必ずしも3ヵ月に固定するものではありません。 ただし、事業全体としては委託期間内に講座を完了する必要があること、受講生間で進捗状況に大きな差が生じないように配慮することが望ましいと考えています。
各コースのメンバーは日程できるのか、レベルチェックのようなものを設けてコースを組めるのか。	各コースのメンバー編成方法については、仕様書において特定の方法は定めていません。 そのため、受講可能な日程・曜日等を踏まえたコース分けや、事前アンケートや簡易的なレベルチェック等を実施し、受講者の理解度や経験に応じたコース編成を行うことが可能です。 なお、受講者選定やコース編成を行う場合には、その基準や方法を企画提案書に具体的に記載いただき、RYO-FU BASEと協議の上で実施することを想定しています。 いずれの場合においても、仕様書に示す「データ利活用人材」の定義や、未経験者を含めた段階的なスキル習得という事業趣旨を踏まえた編成としてください。
講習期間中の自習などの質問対応はどのように行うのか。	講習期間中の質問対応については、オンラインコミュニティやチャットツールを活用し、講師やサポートスタッフが対応できる体制を整備する想定です。過去の講座ではSlackやGitHub等を使用していました。
質問への回答はいつまでに回答する必要があるか。	質問への回答については、可能な限り速やかに対応いただくことを想定しています。 ただし、深夜等に寄せられた質問については、翌営業日に回答するなど、状況に応じて柔軟に対応していただいております。
講座の最低参加人数は？	本事業における受講者数の目標は100名です。 なお、仕様書に記載のとおり、講座（または期間ごと）の受講希望者数が定員の20%に満たない場合には、原則として当該講座は開催せず、開催経費を減額するための契約変更を行うこととしています。 受講者数が100名に達しなかった場合の取扱いについては、仕様書をご確認ください。
集客はRYO-FUBASE側で行うのか？資料を見る限りは、そちらも委託事業者で行うと捉えていたが、委託事業者が行う認識か？	本事業における受講者の募集・広報については、仕様書に記載のとおり、委託事業者が主体となって実施する業務としています。 そのうえで、県内の商工団体、商工会議所、市町等への周知などについては、RYO-FU BASEとしても、連携可能な範囲で積極的に協力する想定です。 委託事業者とRYO-FU BASEが役割分担しながら、両者が連携して集客を進めていくイメージと考えてください。
会場の手配、運営は委託事業者が行うのか、RYO-FU BASEが行うのか？	会場の手配および当日の運営については、仕様書に記載のとおり、委託事業者が主体となって実施する業務としています。 受講環境の確保や会場設置・運営等については委託事業者に対応いただく想定ですが、必要に応じてRYO-FU BASEとしても調整・連携等の協力を行うことを想定しています。
提案企業は、佐賀に登記していなくても大丈夫か。	企画コンペ実施要領に定める参加資格要件を満たしていれば、佐賀県内に登記していない企業であっても提案することは可能です。 なお、参加資格要件の詳細については、企画コンペ実施要領に記載の内容をご確認ください。
目標とするデータ人材については、役割としては単一人材像でなく、複数の役割から成り立つと考えられるため、提案の中で、具体的に、もしくはチューニングしても構わないか？	目標とする「データ利活用人材」は、仕様書の第2に掲げる複数の役割を担える人材を想定しており、その人物像を様々な視点から具体化・明確化し、チューニング（更に高いレベルに引き上げて育成）することを、ご提案いただくことは可能です。